



# CITY WATCHING

## クローズアップ CLOSE UP

### 冬の赤城山の魅力体感

2月3日に赤城山雪まつりを開催。女優の小林綾子さんも参加し、ワカサギ釣りなどを楽しみました。協賛・関連イベントのホワイトフェスティバルと赤城スローキャンピングでは犬ぞりレースや豪華なキャンプなどを実施。参加者は冬の赤城を満喫しました。



### いにしえに思いはせる

2月3日、総合社会館で考古学講演会を開催。上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会委員の前澤和之さんが山上碑と山王廃寺と題し講演。会場にはボランティアが復元した瓦塔や古代文様タイルなども展示され、来場者は古代上野に思いを巡らせました。



### 泥だらけで1位競う

2月4日、岩神緑地で前橋シクロクロスを開催。シクロクロスとは、不整地コースを時間内にどれだけ周回できたか競う自転車競技です。暖かい陽気で残雪が溶け、泥だらけの中レース開始。選手たちは階段や坂に苦戦しながらも、観客の声援に励んでいました。

## 笑顔と笑顔のつなぎ手に

いきいき  
まえばし人

NPPOつなぎ手代表理事  
内山恵子さん・65歳  
柏川町西田面



柏川地区での地域住民とのワークショップをきっかけに、助けてほしい人と手伝いができる人をつなげるNPPO・つなぎ手を平成27年6月に設立。現在70人ほどいる会の代表を務める。

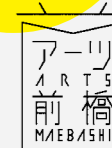
「近所のスーパーや病院への送迎などのお手伝いをしていきます。私たちもいずれは誰かに助けてもらう身。お互いさまの気持ちを忘れずに、誰もが安心して住み続けられるような地域になればいいですね」

主な活動内容は傾聴や送迎ボランティアなどの「おたがいさま事業」、一緒に食事を作って食べる「ごちそうさま事業」、移動販売を行う「買い物弱者支援事業」、そして、地区内の個人宅などで悩みを話し合う「はつらつカフェ」の4つ。いずれも助けを必要としている人が負担感なく利用できるような配慮している。

「自分たちでできなければどこかにつなぎます。みんな力を合わせればできないことはありません。困ったら遠慮せずにSOSを出してほしいと思います」

本業の社会福祉士との両立には、「どちらもつながっていて楽しくやりがいがあります」とあくまで前向き。その笑顔が今日も多く笑顔につながる合言葉になっている。

## アート前橋の 舞台裏 vol.6



アート前橋の学芸員が美術館の舞台裏や自身のバックグラウンドなどを披露。第6回は忠実ゆみが展示室の空間作りについてお送りします。

アート前橋  
027・230・1144

アート前橋で働き始めて気付いたこと。それは、展示ごとに空間の印象が変わることです。作品が印象を左右しているのは確かですが、壁も重要な働きをしています。

アート前橋の地下展示室は回廊状。吹き抜けの中央の展示室を中心に、ぐるりと回る構造です。一部の壁は取り外せません。作品を入れ替える期間には、図面とにらみ合いながらルートを考えて壁を壊し、新たに壁を作ります。作品を

見る順番が鑑賞体験の印象に影響するためです。作品を飾る壁だけでなく、向こう側が透けて見える薄い布状の紗幕や重たい布のカーテンなど、材質を変えた壁も。これには、視界を適度に遮り、次の作品に視線を移す狙いがあります。白い壁は余計な情報をなくすバリアーのような働きがある反面、逆効果になることも。絵本作家・荒井良二さんは、ギャラリーの壁に直接ペンキで絵を描くワークショップを行った時に「白い壁はノートの1ページ目と同じように、人を緊張させてしまう」と言っていました。

来場者が作品と対話できる空間を整えることが、展覧会づくりの大事なポイント。心静かに作品と対話する楽しみも、みんなでおしゃべりする開放的な空間も、壁がそっと守ってくれています。

